

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	学習指導（教務）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒及び保護者等を対象とするアンケートから ・「本校では、教科により習熟度別授業や少人数授業があり、それが学習の理解につながっている。」（肯定評価の割合：生徒90%） ・「隣同士等での意見交流や仲間の意見を聞いて考え合う授業を通して主体的・自主的に学ぶことができている。」（肯定評価の割合：生徒95%）	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 生徒の自主的・主体的な学習態度を育てます。 (2) 各学科の生徒が、他の学科の学習内容や学ぶ姿を知り、高め合うことができます。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・管理職、企画委員会を核とし、他の分掌、学年会と連携した両キャンパス、全課程一体となった組織。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒が自主的・主体的に学ぶことができるよう、アクティブラーニングや評価方法の工夫等の研修を継続するとともに、基礎基本を重視した生徒目線の授業改善・授業づくりのためユニバーサルデザイン化を進めます。 (2) 学科・教科間で連携した教育活動を推進するために、学科の枠を超えた選択科目を設定します。 (3) 学科の多様性を生かし「学習成果発表会」を多面的な学習の機会とします。	(1) 保護者、生徒による授業評価、考査の結果、成果物。 (2) 学科・教科間で連携した教育活動が前年より増えたか。学科の枠を超えた科目の選択者数は増えたか。 (3) 学習成果発表会に対する生徒の満足度、外部評価。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・授業のユニバーサルデザイン化に向けた校内研修の実施 ・生徒が主体的に学ぶ授業の実践 ・学科の多様性を生かした学科、教科の連携	①校内研修会の実施によるユニバーサルデザインの理解と実践ができた。 ②ペアワークやグループワークを積極的に取り入れた授業づくりの増加。 ③学習成果発表会の充実。	Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D
11 成果・課題	○ペアワークやグループワークにおいて、小型ホワイトボードや新しいICT機器の利用をする授業が増加し、生徒の授業アンケートにおいても主体的に取り組める授業作りが評価されている。 ▲自主的・主体的に学ぶ姿勢については、その中身、意欲的な生徒の割合をさらに高めていける余地があると考えられる。生徒の目の輝きを判断材料として、「もっと学びたい」という思いを引き出せるよう工夫が必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・「主体的・対話的で深い学び」を実践するための方策について、職員全体で学ぶ。 ・新しい学習指導要領に向けた、カリキュラム編成について各学科で取り組む。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月25日

【意見・要望・評価等】

- ・和牛甲子園の結果は農業関係者に大きなインパクトを与えてくれた。現状を維持しながら発展して欲しい。
- ・学習成果発表会での発表は、何かを創造していきたいという発信があり、大変期待の持てるものであった。専門的な発表を聞くことができ良かった。これからもワクワクするような学校であって欲しい。
- ・学習成果発表会は、会場全体の雰囲気がとても良く、企業が求める発表もあり大変良かった。